

## キャッシュレスの導入を行いたい

### ■原因・背景

諸外国ではキャッシュレス決済が当たり前となっており、現金をほとんど持たずに来日する人も多い。そのためインバウンド客がショッピングしたり飲食したりするのは、キャッシュレス決済が導入されている店舗が好まれ、キャッシュレス決済を導入していない店舗にとっては、大きな機会損失となってしまう。

### ■解決方法

キャッシュレスの導入に関する関係機関への相談

【国や地方自治体関係機関への相談】

北海道では、人手不足等の課題や国の施策に対応するために、道内中小・小規模企業におけるITやキャッシュレス決済導入の加速化に向けたフェアを実施しており、このような機会などを捉え参加する。

担当：北海道経済部地域経済局中小企業課

国の機関：経済産業省北海道経済産業局 産業部 産業振興課

経済産業省

[https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/cashless/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/index.html)

【キャッシュレスの種類】

・スマホ決済(QRコード・バーコード)・カード決済

【大手決済サービス(一例)】

・エアペイ(AirPAY) ・Square ・PayPay ・STORES

【一般的な決済会社の導入の流れ】

※申請～導入は1週間～2か月程度(キャリアや代行者により異なる)

1.お申込み

店舗情報、口座情報、法人情報が必要。

2.審査

3.配送

審査が完了すると、カードリーダー/QRコード、操作マニュアル、加盟店ステッカーが届く。

4.初期設定Q (コードの場合は不要。会社により異なる)

尚、プラスアルファの期待として以下の効果も期待できる。

・システムのデータを収集し、利用実態を把握することができる

・ポイント還元による利用者の促進

・会計時の混雑緩和

・コロナ対策にも有効

### 《参考事例》

・サッポロティネ(加森観光株式会社)安心・安全のための新たな環境づくり(P.9)

## 多言語化に対応したい

### ■原因・背景

日本のインバウンド市場は国を挙げて推進していることもあり、ここ数年間で飛躍的に伸びてきている。2020年前半の新型コロナウイルスによって、一旦市場は縮小せざるをえなかったが、長期的にはまだまだ拡大が見込める市場である。訪日外国人の満足度を上げるためにも、多言語化は必要不可欠である。

### ■解決方法

状況に応じた翻訳システムの導入

【国や地方自治体関係機関での情報】

VoiceTra(ボイストラ)はNICT(エヌアイシーティー:国立研究開発法人情報通信研究機構)が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の多言語音声翻訳アプリ。<https://voicetra.nict.go.jp/>

【他民間活用一例】

〈音声翻訳〉

・POCKETALK (10,000～20,000円 ※機種により異なる)

インターネット必要、61言語に対応

・ili (20,000円程度)

インターネット不要、英語・中国語・韓国語に対応

〈文字翻訳〉

●自動翻訳(メリット:無料 デメリット:正しい翻訳ではない場合もある)

・DeepL:英語を含め11言語に対応

・Google翻訳:100以上の言語に対応。スマホのカメラで文字を写すだけで、看板やメニュー、食品の成分表示などの同時翻訳も可能

・Cross Transer:日本語の他11ヶ国語に対応

●代理店による翻訳サポート(メリット:内容を理解した翻訳が可能 デメリット:コストがかかる)

・メニュー翻訳サポートの一例

ぐるなびによるお店のインバウンド対応のサポート。

多言語メニュー変換システムで作成する多言語メニューブックなどインバウンド対策に必要なサービスが利用可能。

また「LIVE JAPAN」でのお店情報の掲載や記事や動画でのPR

### 《参考事例》

・全国通訳案内士の導入

通訳案内士は国家試験に合格し、高度な外国語能力や日本全国の歴史・地理・文化等の観光に関する高い知識を有しており、都道府県の登録を受けている。

## Wi-Fiサービスを充実させたい

### ■原因・背景

最近では、観光客の多くがスマートフォンによる情報入手を元に観光を行っており、ストレスなくインターネットにアクセスできる受入体制整備が必要とされている。また、ワーケーションの広まりにより、より、ネットワーク環境の充実が求められている。

### ■解決方法

#### Wi-Fiの導入に関する関係機関の情報の把握

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/cybersecurity/wi-fi/](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/cybersecurity/wi-fi/)

[総務省 | 無線LAN\(Wi-Fi\)の安全な利用について \(soumu.go.jp\)](#)を参照

#### 【主なWi-Fi提供事業者(一例)】

- ・ ギガらくWi-Fi
- ・ FREESPOT
- ・ USEN SPOT

#### 【Wi-Fi比較ポイント】

- ・ 初期費用
- ・ 月額費用
- ・ 通信速度
- ・ 同時接続端末台数
- ・ 解約条件

#### 【一般的なWi-Fi導入の流れ】 ※Wi-Fi契約から配送まで1週間程度

1. インターネット回線の契約
2. Wi-Fi契約
3. 配送  
アクセスポイントが届く
4. 設置工事
5. 接続テスト  
「SSIDとパスワードを端末に入力する」または「メール認証設定の登録」など  
(Wi-Fiスポットごとに異なる)

## 二次交通の利便性を高めたい

### ■原因・背景

地域の観光地は、過疎化により鉄道やバスの便が悪いため、観光地を周遊させるためには、観光地までのシャトルバスや乗り合いタクシーを運行し、レンタル自転車を整備するなど、旅行者の利便性を高める努力が必要となっている。

### ■解決方法

#### 実証的な検証による二次交通導入必要性の検討

##### 【MaaSの推進・支援事業】

公共交通とそれ以外の多様なサービスとをデータ連携により一体的に提供することで、地域が抱える様々な課題の解決に資する MaaS に係る実証実験に対し、日本版 MaaS 推進・支援事業(実証支援事業)に基づいて支援を行うことにより、新たなモビリティサービスである MaaS の新たなモデル構築及び全国への普及を図り、地域や観光地の移動手段の確保・充実や公共交通機関の維持・活性化だけでなく、地域課題の解決に寄与することを目的とする。

##### ●観光MaaS

##### 1.効率的な観光ルートを提示

観光ルートを効率的にまわれば、より多くの施設に立ち寄り、長く滞在したりすることができる。飲食店やお土産店での滞在時間が長くなると、消費額が増え、旅の満足度も上がる。

##### 2.二次交通の利用を促進

コミュニティバス、レンタサイクル、タクシー、フェリーなど地域交通網の時刻表情報をデジタル化。利用者に合わせて案内することで、乗客の増加と利便性の向上が見込まれる。

##### 3.あまり知られていない観光スポットを提案

交通が不便なためにこれまで紹介しづらかったスポットも、二次交通のデータを使うことで提案しやすくなる。大手旅行会社の観光スポットデータを閲覧することも可能となる。

##### ●令和2年事業(参考)

補助率:補助対象経費の1/2以内

申請先:北海道運輸局

尚、プラスアルファの期待として以下の効果も期待できる。

・システムのデータを収集し、利用実態を把握することができる

### 《参考事例》

・札幌市 令和2年度日本版MaaS推進・支援事業(P.10)